

2024 年 6 月 20 日

## SDG4(質の高い教育)の日本の達成度についてのコメント

教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)  
代表 森 透

持続可能な開発ソリューション・ネットワークが6月 17 日に各国の SDGs の達成度を発表しました。SDG4(教育目標)を日本はこれまで「達成済み」とされてきましたが、日本の数学の授業で日常生活に絡めた指導を受ける頻度が他国に比べて少ないという国際学習到達度調査(PISA)の結果が響き、「課題を残す」に評価が下がりました。

PISA の結果だけでなく、日本の教育は「誰一人取り残さない」という SDGs の理念に照らして、3つの大きな「課題」があります。第一の課題は学校教育の「質」です。小・中学校の不登校児童生徒数は約 29 万 9 千件(過去最多)、いじめの認知件数は約 68 万 2 千件(過去最多)。加えて、小・中・高等学校から報告のあった自殺した児童生徒数は 411 人、小・中・高等学校における暴力行為の発生件数は約 9 万 5 千件(過去最多)です(文部科学省)。そもそも不登校の 15 歳の生徒は PISA の試験を受けていません。SDG4 のターゲット 1 である「質の高い初等教育及び中等教育の修了」を達成するための努力が求められています。

第二に、外国籍の子どもの教育は深刻です。「外国籍の子の保護者に対する就学義務はない」(文部科学省)ことから、24%にあたる 421 の自治体は、就学年齢になった外国籍の子どもの世帯に就学案内を送付していません。この結果、外国籍の子どもの 8.4%が小中学校の不就学状態にあります。高校についても一般の進学率が 99%であるのに対して、外国籍の生徒の高校進学率は 60%台と推計されています(日本学術会議 2020 年)。日本語や進路の指導、保護者への配慮などは教育現場の努力に頼っています。これらは SDG4 のターゲット 5 である「教育格差の解消」について深刻な課題があることを示しています。

第三に、成人の非識字の問題があります。2022 年の国勢調査は 90 万人が義務教育を未修了であることが明らかにしました。貧困や差別のために義務教育を修了できなかったこれらの人びとや不登校などの理由から小中学校を「形式卒業」した人びと、外国籍の方々のための「夜間中学」を、「教育確保基本法」に基づき、文部科学省は 67 ある都道府県・指定都市に少なくとも 1 校を設置するとしています。しかし現状では、31 都道府県・指定都市の 53 校にとどまっています。SDG4 のターゲット 6 である「若者および成人の識字」の達成も大きな課題です。

本件についてのお問い合わせは、教育協力 NGO ネットワーク事務局長 三宅隆史  
jnne@sva.or.jp までお願いします。